

つなげよう つながろう ふたばのわ



「ふたばのわ」は双葉町の結びつきを
深めるためのコミュニティ紙です。
自治会・団体の活動紹介や町民同士の
新たな交流の場を取材しお伝えしていきます。
「ふたばのわ」を通して町民のみなさんの
つながりや笑い合う場を増やしていけたら。

つくば体操フェスティバルで披露された相馬流れ山踊り

- ▶ 信頼関係でつながる広がるふたばのわ～加須双葉ミーティング(P2～3)
- ▶ 地域への感謝を胸に～2016つくば体操フェスティバル(P4～5)
- ▶ つなげようつながろうふたばのわ創刊2周年アンケート結果報告(P4～5) ▶ ふたばのわスマイルフォト(P6)
- ▶ 町からのお知らせ(P7) ▶ 放射線モニタリング情報・後世に残したい双葉町・編集後記(P8)

■発行：双葉町秘書広報課(☎0246-84-5202) ■企画・編集：ふたさぼ(双葉町復興支援員)



インターネットでもつなげようつながろうふたばのわ
(町公式フェイスブックページ)

▶ <http://facebook.com/fukushima.futaba>

信頼関係でつながる広がるふたばのわ

加須双葉 ミーティング

埼玉県加須市では2016年2月1日現在、489人の双葉町民が生活しています。ここに暮らすみなさんの日々の生活をより良いものにするため、双葉町関係団体が協力し合い活動を続けています。



世代間・地域間の交流

1月17日(日)、ふたば交流広場(加須市)に、子どもたちの声がにぎやかに響き渡りました。町主催の「凧作り&凧揚げの集い」と双葉町埼玉自治会主催の「餅つき大会」2つのイベントを同日開催し、100人以上が集まりました。子どもから大人まで、双葉町民だけでなく加須地域の方も一緒に、お正月の雰囲気味わいながら楽しい時間を過ごしました。

「凧作り&凧揚げの集い」では、昔遊びの先輩方と子どもたちが一緒に凧作りと凧揚げを楽しみました。

「息子と凧作りをしたのは初めて。幼い頃、親戚のおじさんと一緒に凧を作った時のことを思い出した」

「昔もこつやつて凧を飛ばしては、糸の長さや竹ひごの角度を調節した。やっているうちに自然と作り方を覚えてもんだ」

幼い頃を思い出し、楽しそうに凧を作る大人たちと、それを興味津々で見つめる子どもたち、凧が空に揚がった時のみなさんのうれしそうな笑顔が印象的でした。

凧揚げの後は、「餅つき大会」。杵と臼を使ってベタンベタンとリズムよく餅をつきます。みんなであつたお

餅は、お雑煮、納豆やあんこ、大根おろしと絡めて、美味しくいただきました。つきたてのお餅の柔らかさと温かさがみなさんの心をホッと和ませました。

気持ちの交流から 生まれる相乗効果

このイベントが大成功を収めることができたのは、加須地域で活動する双葉町関係団体の協力体制にあります。その協力体制が作られた場の一つが「加須双葉ミーティング」です。双葉町埼玉自治会、はなみずき婦人学級、双葉町社会福祉協議会、ふたば交流広場、双葉町役場埼玉支所、ふたさば(双葉町復興支援員)が集まり、月1回の会議をふたば交流広場で開催しています。

白河市で行われている情報連携会を参考に、双葉町に関わる団体同士が情報を共有し、関係を築いて行く場として、2015年3月にスタートしました。

第11回加須双葉ミーティングでは、各団体の活動報告やスケジュールの共有、イベントの反省、来年度の計画について話が進められました。「会議」とはいうものの、出席者全員が対等な立場で話し、堅苦しくない雰囲気です。どんどん意見やアイデアが出てきま

す。この場での話し合いが「凧作り&凧揚げの集い」と「餅つき大会」の合同開催に繋がりました。

出席者のみなさんにこの会議を始めてからの変化を聞きました。

「初めは何を話したらよいかわからなかったが、回を重ねる度に、お互いにどんな仕事をしているのか、何を必要としているかわかるようになり、今では自然に会話ができるようになった」
「この会議を続けることで、出席者同士の気持ちの交流ができるようになり、何をするにもまとまり、うまくいくようになった。今年度の世代間交流イベントや餅つき大会は大成功だった。参加者にも大変喜んでもらった」

定期的に顔を合わせて話すことで作り上げられてきた、お互いに相談・協力できる関係。それが様々な相乗効果を生み、町民一人ひとりのより良い生活に繋がります。

今後も参加団体同士で意見を出し合い、より内容を充実させながら継続開催していく予定です。





2月6日(土)、2016つくば体操フェスティバルが開催されました。毎年2月に開催されるこの体操フェスティバルは今年で21回目。つくばに居住する町民を中心に2013年から出場しています。4回目となる今年は約20人の町民が参加し、オープニングには町民有志の相馬流れ山踊りを披露。後半には、イベント参加者と一緒にふたば音頭を踊り、会場を盛り上げました。

～地域への感謝を胸に～ 2016つくば体操フェスティバル

双葉が元気に咲くために

この体操フェスティバルへの参加のきっかけをくれたのが筑波大学体操コーチング論研究室の長谷川聖修(きよなお)先生です。つくばに避難している町民のみなさんを、ご自身が指導されている体操教室に誘っていただいたことから交流がスタートしました。「震災当初、福島に支援をしに行ったこともあるが、もっと自分の身の回りのできることを探しました。被災されたみなさんが、なかなか地域に飛び込むきっかけがないということを知り、体操教室で交流機会をつくることを考えました」と長谷川先生。

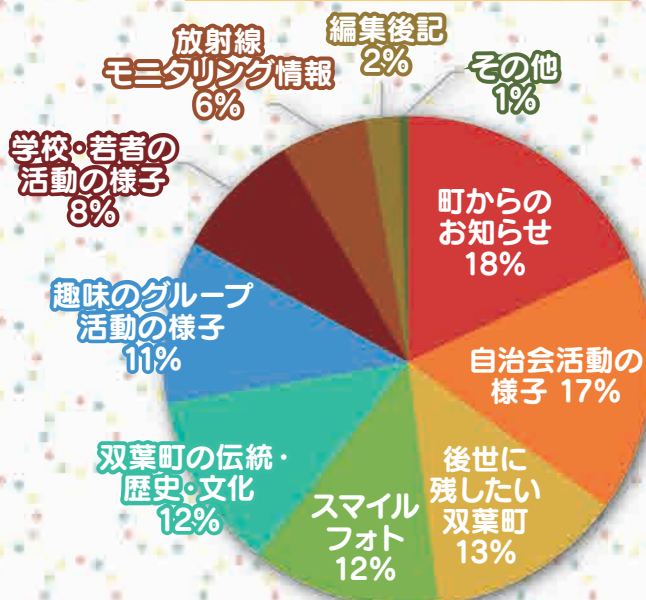
2016つくば体操フェスティバル実行委員会にも参加されている中村富美子さんは、「双葉町民に元気を与えてくれる場所を提供してもらっている。本当に地域のみなさんには感謝でいっぱい」と話されていました。

筑波大学 長谷川聖修先生

イベント
オープニングで
披露された
相馬流れ山
踊り

つくばでできた
お友達と一緒に

興味のある記事



つなげようつながろう
ふたばのわ

創刊2周年アンケート 結果報告

アンケートの結果を一部紹介いたします。
みなさまの声をもとに、今後もより良い紙面づくりに努めていきます。
ご協力ありがとうございました!

体操のチカラ

「体操教室を通じて地元のお友達ができた。地域になじむことができて本当にうれしい」

そう話してくれた町民の方は、九州からつくばに引っ越してきた方と一緒に、長谷川先生のうつくしま体操教室に参加しています。

「体操は、協力をしたり身体が触れ合ったりすることで、人と人の距離を縮めるんです。健康になることと一緒に友達も増えて、さらに元気になるんですよ」

「盆踊りなどのお祭りにも一緒に参加していて、体操教室以外の交流もあります。進路相談にも乗ってもらったり、人生の先輩としていつもアドバイスをもらっています」

そう話してくれたのは、うつくしま体操教室の指導にあたっている筑波大学の学生たち。町民みなさんの経験を若者たちと共有している様子もうかがえました。



筑波大学 学生のみなさん

つくばで描くふたばのわ

町民がこのフェスティバルに参加するようになってから、フェスティバル参加者と一緒にふたば音頭を踊っています。この時の踊り手はなんと約200人。その大きな円を眺めると地域の支えがたくさんあることに気がきます。地域のみなさんと一緒につくるふたばのわ。その「わ」の温かさを強く感じました。



うつくしま体操教室のみなさん

大きな円を描いて
踊られた
ふたば音頭



感想

- ▶身近な話題がいっぱいで楽しみ
- ▶毎回読むたびに家族で話題にしている
- ▶みんなの元気な姿を見てホッとする …など

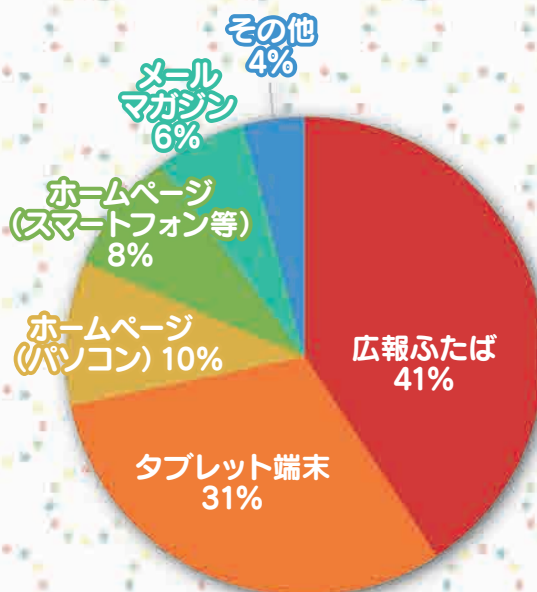
要望

- ▶スマイルフォトの内容の記述があるとよい
- ▶明るい話題を取り上げてほしい
- ▶長く発行を続けてほしい …など

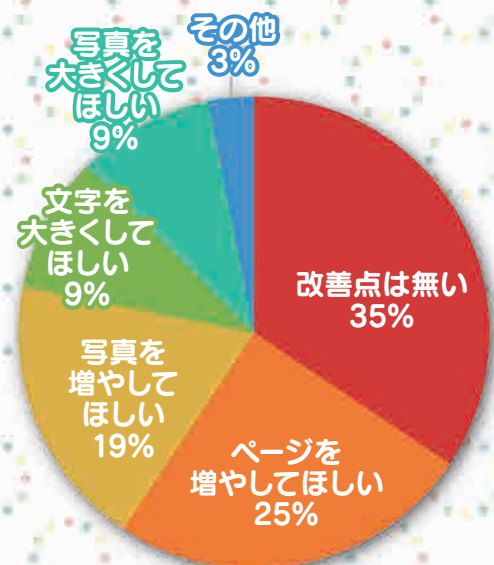
取り上げてほしい内容

- ▶双葉町の現在の様子、復興状況
- ▶これから先、未来の双葉町
- ▶子ども、若者、子育て世代の活動や写真
- ▶避難先地域の情報 …など

町からの情報の入手方法



改善してほしい点



ふたばのわ スマイルフォト

～笑顔でみんなをつなげたい～



1月23日
第2回双葉町民
パークゴルフ大会(いわき市)



1月24日
双葉・富岡・川内合同
男の料理教室(郡山市)



1月26日
出張ひだまりサロン
in 南相馬
(南相馬市)



1月26日
県南双樹会料理教室(白河市)



1月27日
ふたば交流広場
ママサロン(加須市)



1月30日
新年会 in 神奈川(横浜市)



2月5日
喜久田応急仮設住宅
健康サロン(郡山市)



2月6日
お茶会 in 千葉(船橋市)



町からのお知らせ

講座

うつを学ぶ家族の相談会を開催します

参加無料

要申込み

うつ病の方への対応で悩んでいませんか。例えば、生活習慣の改善のため運動を勧めるとき、どのように声をかければよいでしょうか。みなさまのご参加をお待ちしております。



【日時】平成28年3月25日(金) 午後1時30分～午後3時

【場所】相双保健福祉事務所 2階大会議室
(福島県南相馬市原町区錦町1-30)

【内容】公開講座「うつ病の再発予防のために大切なこと」

講師：公立大学法人 福島県立医科大学

医療人育成・支援センター 助教(臨床心理士)本谷 亮 氏
※午後3時5分より家族相談を行います。

(家族のみ参加可能、事前にお申込みください。)

【対象】うつ病で治療中の方のご家族、一般住民

保健・医療・福祉関係機関の職員等

【申込み期限】平成28年3月22日(火)

【申込み・問い合わせ先】相双保健福祉事務所 障がい者支援チーム
TEL:0244-26-1132

法律

女性活躍推進法が施行されます

【301人以上の労働者を雇用する事業主のみなさまへ】

平成28年4月1日までに、①自社の女性の活躍状況の把握・課題分析、②「一般事業主行動計画」策定・労働局への届出・従業員への周知・外部への公表、③女性活躍の情報公表を行う必要があります。(300人以下の事業主は努力義務)

【問い合わせ先】福島労働局雇用均等室 TEL:024-536-4609

試験

国家公務員採用試験のお知らせ

人事院では、次のとおり国家公務員採用試験を実施いたします。

試験名	申込受付期間	第1次試験日
総合職試験 (院卒者・大卒程度)	【インターネット】 4月1日(金) 午前9時～4月11日(月) ※受信有効	5月22日(日)
一般職試験 (大卒程度)	【インターネット】 4月8日(金) 午前9時～4月20日(水) ※受信有効	6月12日(日)

申込方法や受験資格等の詳しい内容については、人事院ホームページ又は下記にお問い合わせ下さい。

【問い合わせ先】人事院東北事務局 第二課 試験係 TEL:022-221-2022
ホームページ: <http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>



住宅用火災警報器を設置しましょう!



住宅火災の現状

- 就寝時間帯が昼間に比べ、人命危険が高い!
- 死者の発生した火災の出火原因で最も多いのは「たばこ」です!
- ストーブ火災の中では、「電気ストーブ」の出火が約7割と多い。(多くは寝具類に接触して出火)

火災と救急は119番【消防署連絡先】

- ◇浪江消防署 0240-34-7360
- ◇富岡消防署 0240-25-2119

住宅用火災警報器の設置効果

- 住宅用火災警報器が設置されている場合は、設置されていない場合に比べ・・・
被害状況はおおむね半減!

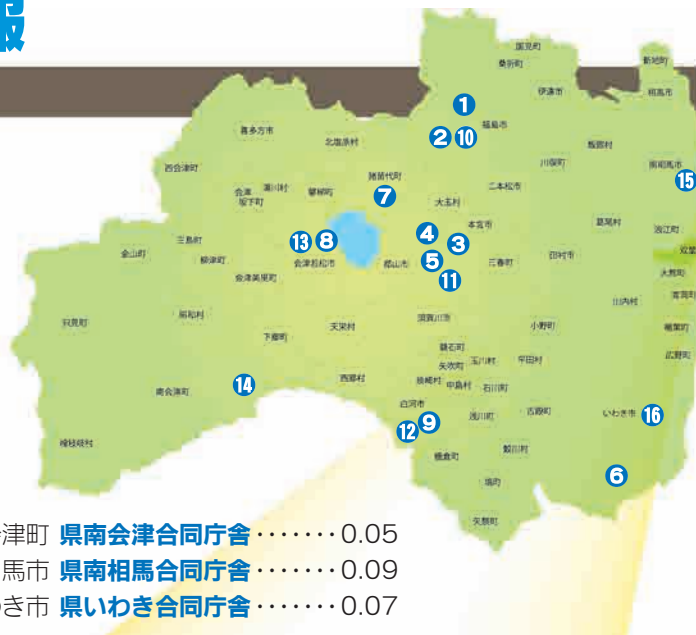
放射線モニタリング情報

福島県内 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$)

平成28年2月26日

- ①福島市 北幹線第二応急仮設住宅 0.13~0.22
- ②福島市 さくら応急仮設住宅 0.12~0.19
- ③郡山市 日和田応急仮設住宅 0.12~0.47
- ④郡山市 喜久田応急仮設住宅 0.11~0.63
- ⑤郡山市 富田応急仮設住宅 0.22~0.25
- ⑥いわき市 南台応急仮設住宅 0.05~0.06
- ⑦猪苗代町 上川原応急仮設住宅 0.06~0.08
- ⑧会津若松市 第二中学校西応急仮設住宅 0.06~0.09
- ⑨白河市 郭内応急仮設住宅 0.11~0.14
- ⑩福島市 県北保健福祉事務所 0.20
- ⑪郡山市 県郡山合同庁舎 0.11
- ⑫白河市 県白河合同庁舎 0.08
- ⑬会津若松市 県会津若松合同庁舎 0.07

- ⑭南会津町 県南会津合同庁舎 0.05
- ⑮南相馬市 県南相馬合同庁舎 0.09
- ⑯いわき市 県いわき合同庁舎 0.07



双葉町内 (単位: $\mu\text{Sv}/\text{時}$)

地区	地点	平成24年 4月1日	平成28年 2月26日
新山	新山公衆トイレ脇公営駐車場	—	0.69
新山	新山公民館	—	0.49
新山	双葉町歴史民俗資料館	—	0.45
新山	双葉南小学校	—	0.53
新山	双葉中学校	—	0.25
新山	県立双葉高等学校	—	0.29
新山	中央公園	—	0.60
下条	双葉総合公園	2.60	1.02
下条	双葉町役場	—	0.34
郡山	郡山公民館	1.48	0.62
細谷	細谷公民館	2.31	0.75
三字	三字公民館	2.53	1.05
山田	山田農村広場	24.47	7.95
石熊	石熊公民館	12.10	4.57
長塚	双葉町体育館	6.25	2.25
長塚	長塚二公民館	3.26	1.03

地区	地点	平成24年 4月1日	平成28年 2月26日
長塚	双葉町青年婦人会館	—	2.34
長塚	町西住宅	—	0.50
長塚	JAふたば北部営農センター	—	7.13
長塚	双葉北小学校	—	2.08
長塚	ふたば幼稚園	—	1.81
長塚	双葉駅北側駐車場	—	0.48
長塚	双葉町児童館	—	0.38
羽鳥	上羽鳥	1.89	0.82
羽鳥	羽鳥公民館	1.73	0.64
寺松	寺松公民館	3.46	1.30
渋川	渋川公民館	1.48	0.56
鴻草	北部コミュニティーセンター	4.30	1.68
中田	中田公民館	0.77	0.32
両竹	両竹公民館	0.54	0.11
浜野	浜野公民館	0.34	0.13

原子力規制委員会ホームページより

※全国及び福島県の空間線量測定結果については原子力規制委員会ホームページでご覧になれます。▶<http://radioactivity.nsr.go.jp/map/ja/>

編集後記

3月11日で東日本大震災から5年となりました。震災当時、私は横浜にいました。その時は双葉町に来る事を全く想像していませんでしたが、「東北のために何かできることを考えたいんです!」と申し出、何の当てもないままに、2011年12月に会社を辞めました。その後、あれよあれよという間に福島に。

『言葉は現実になる』『言葉には魂が宿る』とよく言いますが、わが身を振り返って考えると、この5年間は本当にその通りだったなと感じています。そして双葉町に来てからは、言葉を大切にしながら、その一言一言の積み重ねが未来をつくると信じて広報の仕事をしてもらいました。

これからみなさんの周りにたくさんの素敵な言葉が増えますように。この編集後記にそんな『言葉』を刻みたいと思います。(ふたさぼ 小林辰洋)

後世に残したい双葉町

前田川は私の「遊び場」でした。

夏休みは毎日のように双葉高校東側の「新山堰(せき)」のところで友達と泳いでいました。友達といかだを作り川に浮かべたり、そりを作り土手でそり滑りをしたりして遊んだこともありました。

双葉高校の野球部だった私はグラウンドのネットを越え前田川に落ちたファウルボールを拾いに行くことも。当時は練習中に水を飲むことは厳禁。ボールを探しに行った振りをしてこっそり川の水を口に含んだこともありました。

父親になってからも、子どもたちと浅瀬で石をどかして生き物を探したり、子どもたちもとてもはしゃいで喜んでいました。

今でも、前田川の流れや景色を見ると心がホッとします。

